

所属・資格 社会学科・准教授

申請者氏名 石岡 丈昇

研究課題		現代マニラのジェントリフィケーションと都市底辺層の生活再編をめぐる実証研究
報告の概要	研究目的 および 研究概要	本研究の目的は、フィリピン・マニラで急増する貧困地区解体をジェントリフィケーションの枠組みから分析することである。マニラの貧困は、空間的にはスクオッター地区と呼ばれる「不法占拠」地域に集積する。近年、スクオッター地区がマニラの経済発展の阻害要因とみなされ、それらの強制撤去が激増している。本研究は、なぜ今日においてスクオッター地区の強制撤去が急増しているのかという構造的条件を、ジェントリフィケーションの枠組みを援用しながら解明するものである。さらに、強制撤去を実際に被った世帯の追跡調査を実施することで「貧困層のさらなる貧困化」過程を分析する。
	研究の結果	本研究からは「経済発展によってマニラの都市貧困層の生活が底上げされる」という一般的な主題に対して、それとは逆に「経済発展の過程で新たな困窮が形作られる」点を示された。たしかに経済発展を通じて、マニラには数々のショッピングモールや高級住宅街が形成され、車道を走る車も外国産の高級車が目につくようになった。だがそれは消費に意欲的な中間層の姿であって、それが全体社会の変化を表しているわけではないことが「貧困層のさらなる貧困化」の事例から明らかになった。とりわけ、貧困層の居住の貧困問題が見て取れた。
	研究の考察・反省	本研究では、貧困地区解体の実証データを捉えることができた。一方で、それを理論的に考察する点には課題が残った。スクオッター地区の強制撤去を単なる事例分析のみで終わらせるのではなく、ジェントリフィケーション論や社会的受苦論 (Auyero & Swistun 2009) といった最先端の研究動向と接合して枠組みを洗練させることが、今後の課題である。また、単なる実証研究を超えた議論枠組みと概念形成をより上げるために、現地の研究者とのより密接な共同研究体制の構築も次年度以降の課題である。
研究発表 学会名 発表テーマ 年月日/場所	研究成果物 テーマ 誌名 巻・号 発行年月日 発行所・者	※この欄は、本報告書提出時点で判明している事項についてご記入ください。 石岡丈昇「メガイベントと道徳政治と都市改造」『学術シンポジウム 2020年オリンピック・レガシー再考 報告書』日本女子大学人間社会学部現代社会学科編、2020年1月31日